

英語教育実践報告

－いの町菊池学園の取り組みを参考に－

■ 柳瀬 真紀

キーワード 教室環境、主体的英語学習、自己肯定感

はじめに

本報告は2017年度に開講された高知大学共通教育英語科目「大学英語入門（中級）」（第1学期、4月18日から7月27日まで週2コマ全30回開講）における、いの町菊池学園の取り組みを参考にした授業実践報告である。まず、「いの町菊池学園の取り組み」では、2016年度から高知県いの町で実施されている菊池学園の取り組みの概要を述べる。つぎに、「授業の概要と評価」、「菊池学園の実践と受講者の反応」では、本授業内に行われた菊池学園の取り組みを参考にしたいいくつかの活動や特筆すべき点を取りあげてみたい。そして「アンケート結果」、「考察」では最終授業の際に行った授業アンケートやノートの記載を基に、実践の効果を分析する。

1 いの町菊池学園の取り組み

「いの町菊池学園」とは、高知県いの町の地方創生総合戦略『心そだてる「みらいの町」推進事業』の教育分野における主要事業である。教育実践研究家である菊池省三氏を教育特使に委嘱し、「自尊感情を高める」、「不登校児童生徒のいない学校づくり」、「いじめのない学校づくり」、「コミュニケーション能力の育

成」、「基礎学力の定着・向上」を目指し、以下4つの取り組みを実施している。①各学校での師範授業、先生への指導助言を行う「菊池学級」②町内及び町在住の教職員・保育士等を対象の学びの場「教師塾菊池寺子屋」③大学生を対象とした学びの場「教師のたまごセミナー」④町民対象の講座やセミナー「大人版菊池学級」（いの町菊池学園だより平成28年4月）である。この取り組みを通して、将来の夢や目標を持ち、その実現のために自らの強みや良さを理解し、自己実現のために努力する子どもを育成することを目指している。（いの町教育委員会.2017）

執筆者は、教師塾菊池寺子屋第28日目（全国公開）、第3回いの町教育特使菊池省三先生との学び場、2017年菊池道場全国大会に出席し、菊池省三氏、及び小学校教員による取り組みの実践発表を目にした。菊池学園で取り組まれている実践は、主に成長ノート、ほめ言葉のシャワー、価値語である。成長ノートとは、いの町教育委員会乾孝治氏によると、教員が望ましい姿や目指すべき方向など成長を促すためのテーマを与えて子どもに書かせるもの、である。教員は書かれた内容を褒めて、認めるために赤ペンを入れる。そして、ほめ言葉のシャワーは、順番に一日一人、その日の“主役”になった子どものいいところを見つけて、帰りの会でクラス全員がほめる活動である。（菊池・関原、

2012) 価値語は、菊池氏の造語で、社会で生きていくために大切な価値や気づきや行動を、自分なりの言葉や表現を使って作り出す言葉を指す。(いの町菊池学園だより平成29年2・3月) いの町では、管轄の全ての学校に価値語日めくりカレンダーが配布されている。菊池実践を行っている学級の小学生の共通点は、自らに自信を持ち、積極的に発言し、授業や学級活動に主体的に取り組むことである。実践を映像で見た執筆者は、大変衝撃を受けた。菊池省三氏の担当した学級の小学生のように、自信を持って、自らの意見を論理的に述べる大学生がどれだけいるだろうか。同時に大学で実践すると学生はどのような反応をするだろうかと考えた。小学生と大学生は当然だが、年齢が違い心身面での発達が違う。教授法もそれに伴って変わるのが然るべきである。しかしながら、教育における根本的な考え方に大きな違いはないのではないか。前任の塩田町長は、子どもが自分自身の存在を誇りに思えるような人間に育っていかば、自ら考え、自ら行動し、いの町の発展に貢献してくれるのではないかと、また菊池先生の実践によって子どもが成長していく姿を通して、先生や保護者も変わっていくだろうと考えていると発言している。(菊池.2016) 文部科学省が平成24年に策定した大学教育実行プランでは、主体的に学び・考え・行動する力を鍛える大学教育の質的転換が記されている。自ら考え、自ら行動することは、大学教育に求められているものと同じであると言える。

2 授業の概要と評価

大学英語入門(中級)は、共通教育という枠組みの中の必修科目であり、学生はプレイズメントテストの結果によって、初級、中級、上級と振り分けられる。内容や教科書は担当教員の裁量に任されており、執筆者はテキストを使用せず、パワーポイントや随時プリントを配布し、授業を展開した。クラスルールを1 Smile 2 Keep your voice loud and clear. 3 Don't afraid of making mistakes. 4 Have fun と定め、初回の授業で提示した。特に声が小さいと聞き返される回数が多くなり、その時に自分の発音や文法の間違いの

ためであると勘違いしてしまい、自信を失いがちなこと、間違えることは決して恥ずかしいことではなく、授業の中で間違いながら色々なことを習得してほしい旨を周知した。さらに、感情を伴う学習が、記憶に定着しやすいことを述べ、学習を楽しむ重要性を説明した。これは、第3回いの町教育特使菊池省三先生との学び場にて、本間正人氏の講演からヒントを得たものである。(本間・菊池. 2015) 授業の到達目標は、1 新聞記事や Graded Readers を読み、要旨を理解できる 2 新聞記事や Graded Readers の簡単な要約を英語で書き、説明できる 3 指定された課題をグループで作成し、プレゼンテーションできる、とした。受講人数は48名であったので、6名1グループ8班とし、学期を通して同じメンバーで活動した。成績評価は、授業内課題2回30%、エッセイ30%、グループプレゼンテーション40%の配分により総合的に評価した。なお、グループプレゼンテーションは良かったと思うグループを全員の投票で決め、得票数が1番多かったグループのメンバーに+5点加点する、とした。授業の内容は、大きく分けて、リーディング、エッセイライティング、プレゼンテーションで構成した。リーディングは高知大学自律学習支援センターで自分の興味のある Graded Readers を選び、借りたものを読むことから始めた。読んだ本について Book Review を書き、それをもとに2週間後に班ごとにスピーチを行った。1回目のリーディングは執筆者が指示したが、2回目以降は班ごとに素材を選び2週間ごとに読んだ内容についてスピーチを行った。受講者が選んだ素材は、レシピ、記事、歌詞、Graded Readers であった。ライティングは苦手意識を持っている受講生が多かったので、まずはノートに5行から書く練習から始めた。これは、1行目に結論、2、3、4行目に理由、5行目に結論を書く手法である。(青野.2015) この活動で Introduction、Body、Conclusion の流れを理解し、それぞれ詳細に学習した後、最終的には4パラグラフ250文字のエッセイライティングを評価した。プレゼンテーションは、随時班ごとにスピーチを行い、英語を発することに慣れる、授業の中では当たり前のよう

に英語を話すということを徹底した。最後のプレゼンテーションのテーマは、授業内で少しずつ鑑賞したマイケル・ムーア監督作品である『世界侵略のススメ』の中で印象に残った国やトピックを各班を選び、グループで15分のプレゼンテーションを実施した。

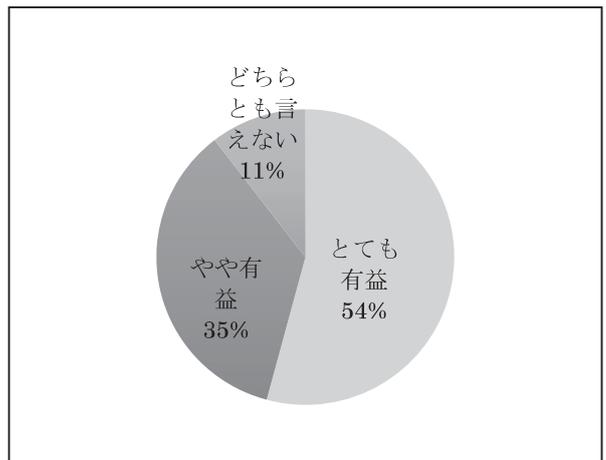
3 菊池学園の実践と受講者の反応

菊池学園の実践の中で、大学での学習に取り入れることができる取り組みとして、成長ノートとほめ言葉のシャワーからヒントを得たポジティブフィードバックを授業の中で実施した。一人1冊ノートを用意、初回の授業では今後の目標、英語の目標を書くことからスタートし、さらに自分の目標を達成するための課題の設定を行った。課題の内容、頻度や量は全て受講者の判断に任せた。そして、グループのメンバーからは、激励のコメントを書いてもらうこととした。2回目以降は、主に授業の振り返り、自律学習の記録、随時授業内の課題の記入を指示した。授業内で短いものも含め、8回グループ内でスピーチを行ったが、発表者に対して毎回メンバーにコメントを記入してもらった。記入する際には、否定的なコメントでなくポジティブで良い点について書くように指示した。また、執筆者が学期を通して5回ノートを回収し、コメントを記入した。Appendix1、2にノートに記入された授業内のふりかえり、及びメンバーへのコメントの抜粋を掲載する。

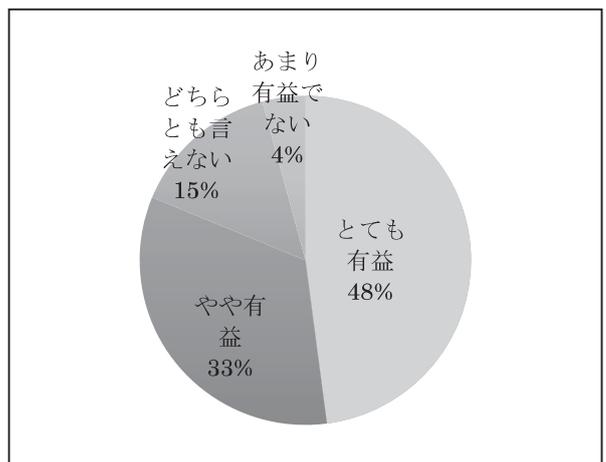
4 アンケート結果

学生自身がこの活動をどのように感じていたかを授業終了後のアンケートを参考に比較考察したい。以下は5件法と記述式のアンケート結果である。対象は受講者48名で回収率は100%であった。なお、アンケート(Appendix3参照)は12項目あったが、その中のノートやポジティブフィードバックに関連する3項目を抜粋し、グラフで結果を提示する。

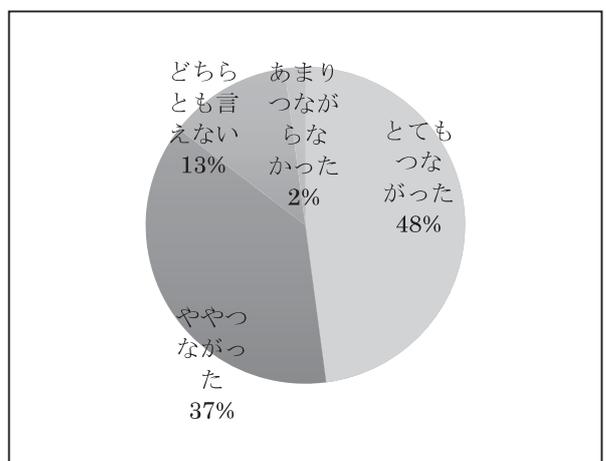
Q 5. ノートの提出は学習に有益だと思いますか。



Q 8. メンバーからのフィードバックは有益だと思いますか？(ノートへのコメント)



Q10. 教員やメンバーからのフィードバックは自信や自己肯定につながりましたか？



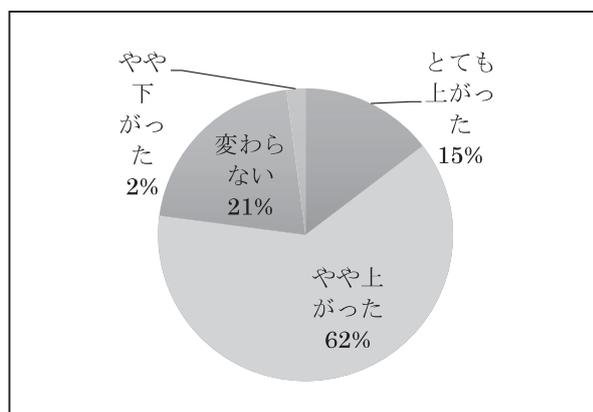
5 考察

アンケートQ1 (Appendix3)の結果によると、非常に有意義44%、有意義52%、合わせて96%の受講生は授業が有意義であったと回答している。グラフからもわかるようにノート提出、フィードバックは有益であり、自信や自己肯定につながったと言える。それは、Appendix1、2に示したふりかえりやメンバーへのコメントを見ても明らかである。また、執筆者が5回のノートチェックで気づいた点が、3点あった。まずは、自分ができるようになったことについて、自信を持って書いてくるようになったことである。Appendix1にあるように、スピーチひとつをとっても、大きな声で話せた、すらすらとできた、紙を見ずにできた、と自分の成長を喜んでいる様子がよくわかる。次に、授業での目標を自ら見いだしている点である。次はもっとジェスチャーを使っていきたい、eye contactを意識しつつできるように励みたい、次の課題でも新たな本を読みたい、と主体的に活動や学習に取り組む意欲を見せている。最後は、クラスメイトから良い刺激を受けていることである。スピーチを参考にしたい、なめらかな発音をマネしたい、自分も取り入れていきたいなど、自分とよりできるクラスメイトと比べて悲観的になるのではなく、積極的に学ぶ姿勢が多く見られた。受講者同士のポジティブなフィードバックによって、メンバー同士に良い関係が構築されたことによるところが大きいと言える。授業の中でもメンバー同士コミュニケーションを取りながら課題に取り組む活動が多くあったが、各グループが積極的に取り組んでいる様子、また教え合う様子が見られた。これは、菊池学園の取り組みを参考にした実践を通し、楽しく学ぶ、支持的な雰囲気を作り出すことができたためと推測できる。廣森(2006)は、集団における協力的な関わり、あるいはそれを支える学習環境は、学習に対する動機づけを高めるうえで重要視すべき要因だと考えて述べている。また、ドルニエイ(2001)は動機付けの条件整備として、「楽しい、支持的な教室の雰囲気」だけでなく、「適切な教師の行動と学習者との良好な関係」も挙げている。この実践は学生同士の関係性を高める

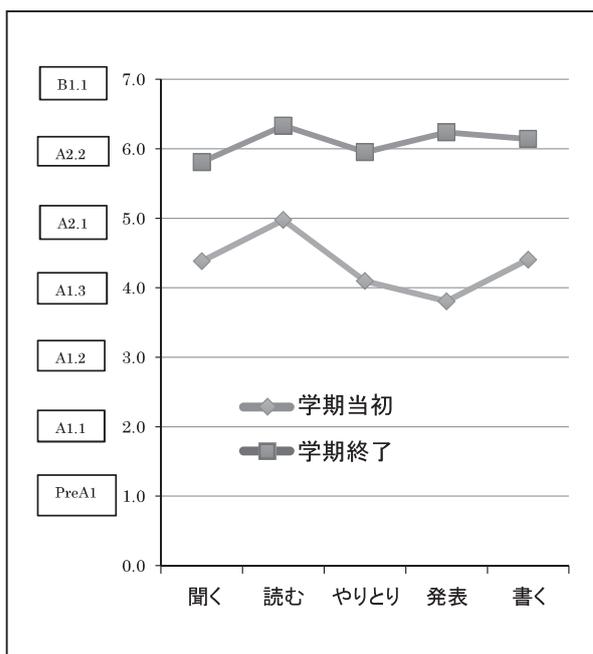
だけでなく、教員と学生とのコミュニケーションにも良い影響を与えた。ノートを通して一人ひとりの学生と意見の交換が可能であり、その結果、学生のニーズに合わせて授業計画の修正が可能になった。実際に、1回目のノート回収時にTOEICの目標を書いている学生が多かったため、TOEICについての学習も授業に組み込んだ。また、洋楽を聞きたいという要望やリーディング教材の内容や難易度についての意見も取り入れた。発表に苦手意識がある学生や授業内容の理解に不安を感じている学生には、励ましのフィードバックやノート返却時に個別に声がけすることができた。これは、ノートを通じてのコミュニケーションがなければ、できないことであった。

ポジティブなフィードバックに対し、かなり肯定的な意見がアンケート結果に現れていることは前述の通りである。では、受講生は自身の英語力の向上についてはどう考えているだろうか。下記は、5件法と記述式アンケートの結果である。また、このアンケート以外にも、東京外国語大学投野由紀夫研究室作成のCEFR-Jの項目を使用した、英語力自己評価も学期開始時と終了時に実施した。CEFR-Jは、「聞くこと」、「読むこと」、「やりとり」、「発表」、「書くこと」、それぞれPreA1からC2まで12段階でレベルわけがされている。受講者にはCEFR-Jの一覧表を見ながら、英語力を自己評価してもらった。PreA1から1点ずつ点数づけし、最高レベルC2は12点とした。(Appendix4)対象は、受講者48名だったが、回収率は91.3%であった。

Q2 自身の英語力の向上につながりましたか？



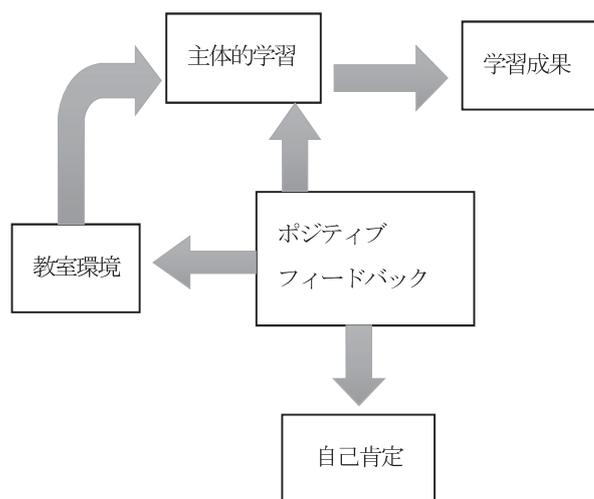
CEFR-J 自己評価アンケート結果



	学期開始時		学期終了時	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差
聞くこと	4.4	1.7	5.8	1.9
読むこと	5.0	1.9	6.3	1.6
やりとり	4.1	1.7	6.0	1.8
発表	3.8	1.7	6.2	1.6
書くこと	4.4	1.4	6.1	1.1

とても上がった、やや上がったの回答を合わせると77%の受講者が、自身の英語力が上がったと感じている。また、CEFR-Jでそれぞれの項目、全ての平均点が向上した。特に発表の点数が伸びており、これはスピーチや最終プレゼンテーションを経験したことが大きく影響していると推測できる。また、授業内の音読やスピーチの練習も大きな声で実践する受講者が非常に多かった。これは、菊池実践によって、メンバーと友好的な関係が築けたこと、またそれが教室全体に広がり、受講生にとって学びやすい雰囲気を作り出したと考えられる。菊池自身も(2012)、「ほめ言葉のシャワー」を通して、子ども同士の関係性を高めて、その先により深い対話型の豊かなアクティブ・ラーニングが成立する授業を目指していると述べている。まさ

に、この授業実践において、受講者同士の良い関係性の構築が、学ぶ環境、姿勢に大きく影響し、英語力の向上を受講者が実感することにつながったと言える。上記を図解すると、以下ようになる。ポジティブフィードバックが教室の人間関係に影響し、学習しやすい雰囲気を作り出した。その結果、受講者は、より主体的に学習に取り組むことができたと言える。さらに、ポジティブフィードバックは、多くの学生の自己肯定感にも影響を与えた。



おわりに

本報告は上記のような5つの点から、菊池学園の取り組みを参考にした授業のまとめを行った。まず、「いの町菊池学園の取り組み」では、菊池学園の活動の概略を述べた。次に「授業の概要と評価」、「菊池学園の実践と受講者の反応」では、授業の内容と菊池学園の取り組みを参考にして実践した活動を紹介した。最後に「アンケート結果」をもとに、「考察」として、受講者の反応や自己評価、さらにポジティブフィードバックが受講生に与えた影響を明らかにした。

今学期はアンケートによる回答をもとにした考察を行ったが、上記の自己肯定と学習成果の関係性を明らかにするために、今後は授業前後で自己肯定感の測定を実施し、より正確に変化を考察するとともに、自己肯定感の高まりと実際の学習成果に相関関係があるのかを検証したい。

参考文献

- 青野伸達 (2015) 『グローバル時代を生き抜くためのハーバード式英語学習法』 秀和システム
- 菊池省三 (2016) 『白熱する教室第6号』 中村堂
- 菊池省三・関原美和子 (2012) 『菊池先生の「ことばシャワー」の奇跡－生きる力がつく授業』 講談社
- ソルタン・ドルニエイ (2001) 『動機づけを高める英語指導ストラテジー35』 米山朝二・関昭典 (訳) 2005 大修館書店
- 廣森友人 (2006) 『外国語学習の動機づけを高める理論と実践』 多賀出版
- 本間正人・菊池省三 (2015) 『コミュニケーション力で未来を拓く』 中村堂
- いの町菊池学園だより (平成28年4月)
< http://www.town.ino.kochi.jp/pdf/kikuchigakuen_h2804.pdf > 2017年7月25日アクセス
- いの町菊池学園だより (平成29年2月・3月)
< http://www.town.ino.kochi.jp/pdf/kikuchigakuen_h2903.pdf > 2017年7月25日アクセス
- いの町教育委員会 第2次いの町教育振興基本計画～ほめ言葉のシャワーのまちを目指して～ (2017)
< <http://www.kochinet.ed.jp/ino-t/h28sinkoukeikaiku.pdf> > 2017年8月2日アクセス
- 東京外国語大学投野由紀夫研究室『CEFR-J Version1.1』
< <http://www.cefr-j.org/download.html> >
2017年4月10日アクセス
- 文部科学省 (2012年) 『大学改革実行プラン』
< http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/24/06/_icsFiles/afieldfile/2012/06/05/1312798_01_3.pdf >
2017年7月28日アクセス

Appendix1

ノートの記入抜粋 (原文記載)

<授業のふりかえり>

- ・1分間スピーチは、いつもよりたくさんの人に見られてちょっと緊張した。けど、上手やって言ってもらえて、すごく嬉しかったし、達成感がすごくあって、頑張って準備して良かったと思った。
- ・先生がノートを返す時に、コメントくれるのは、ちゃんと見てくれている気がしてすごく嬉しい。だから、これからも続けてほしい。
- ・ノート返却の時に、アドバイスやほめて頂いてうれしかったです。自分はほめられて伸びるタイプなので、もっとほめてほしいです。
- ・少し規模が大きい発表だったので、いつもより緊張したけど、あまり紙を見ずにできた。最後の発表の時は、紙を見ずに声をもっと大きくしたい。
- ・自分たちの班の発表の後に、別のグループで発表したので、できなかった箇所を直せたので良かった。
- ・テストのためでない勉強は楽しいと感じた。
- ・Good afternoon と大きな声でいい、明るい感じのプレゼンをすることができたのでとても良かったです。
- ・少し緊張したけど、しっかりスピーチできたと思う。次はもっとジェスチャーを使っていきたいと思う。
- ・スピーチが前よりかは、すらすら言えるようになった。eye contact を意識しつつできるように励みたい。次の課題でも新たな本を読みたい。
- ・班ごとで行うリーディングでうまく周りの人に伝えることができなかったです。もっとわかりやすく伝えられるようにがんばります！
- ・今日は各班が前にたって発表しました。私はたくさん人の前にたって話す事が苦手なので、この英語の時間で克服できたらいいなと思いました。目線をあげて大きな声でみんなに伝わるように話していきたいです。
- ・英語の中で一番苦手な「聞き取り」と3番目に苦手な「発表」をやって、正直疲れました。「苦手」だって言ってるだけでは、なにもならないので自分のためにがんばりたいと思いました。
- ・英語の力がこの3ヶ月でメキメキとついたら！！また、英語の力だけでなくグループワークなどでコミュニケーションの力もついたら。
- ・プレゼン、あまり詰まらずに発表できて良かったです。さいきん発表がそんなに緊張しなくなってきていいかんじです。

- ・自分としては落ちついて、はっきりと言えていたかわからないけど、大きな声で話せたし、3人とアイコンタクトをとって前を見ながら話せてよかった。
- ・最後のスピーチで班内で1番になりました。今まで授業内で何回もしゃべっているうちに楽しめるようになってきました。ただ、簡単な単語でしか話せていないので難しいことも言えるようにがんばりたいです。
- ・授業楽しくて英語の力がついているので大変嬉しいです！！
- ・みんな話し方がうまくなっている気がする。
- ・わからない分、みんなが説明してくれたので理解できました！
- ・友達の発表もユニークでわかりやすく、時間の使い方も上手かったので、参考にしたい。
- ・アイコンタクトとかなめらかな発音とかマネしたいと思った。
- ・他の班の人は少しレベルが高くて驚きました。私も負けないように頑張ろうと思いました。
- ・自分が書かないようなくわしいスピーチですごいと思った。そういうところも取り入れていきたい。
- ・他の班に Hello から始めている人がいて、いいなと思取り入れてみた。

<メンバーからのコメント抜粋（原文記載）>

- ・内容がまとまっていて、わかりやすく聞き取りやすかったです。
- ・しっかりと考えられた文ですごいです！
- ・アイコンタクトも声の大きさも良くてすごい。
- ・要点まとめて、しっかり伝えていて良かった。
- ・スピーチ能力上がってきたな。
- ・とても良いスピーチでした。しゃべり方上手でした。
- ・なるべく紙を見ずに本を持って、笑顔でしゃべれとって良かった。
- ・間の取り方はもうプロ級
- ・いつもハキハキ話せていて良いと思います。
- ・やっぱり話し方うまい。声が大きい。はきはきして
- いる。良いところしかない。
- ・声のトーンがかっこ良くて、本物の外国人みたい（笑）
- ・決められた事以外にも、例とか入っていて、一番プレゼンぽさがあったし、ハキハキして良かった。
- ・メモなしでさらさら言えててすごかった！！
- ・いつも楽しそうにスピーチしてていいなと思う。
- ・ハキハキ自信を持っていてとても良かった。
- ・難しいテーマに対して、しっかりと意見とかできてすごかった！
- ・スラスラ言えててうらやましい！私もそうなれるようにがんばる！
- ・聞いている人が楽しくなるようなスピーチでした。
- ・もっとたくさん聞きたかったです。
- ・かなり長い文章を話せていてすごかった。
- ・君のようにしっかり話せるようになりたいよ。

Appendix2

アンケート記述コメント

Q5. ノートの提出は学習に有益だと思いますか。

以下主なコメントを抜粋（原文記載）

とても有益・やや有益を選んだ学生

- ・「提出がある」という意識から「たくさん書こう」とか「宿題を多めにしよう」という考えにつながった。
- ・コメントがあるとやりがいがある。
- ・前向きに取り組めた。
- ・先生からのコメントが毎回楽しみで頑張れました。
- ・やっていることを評価してもらえることで頑張れると思う。
- ・コメントがすごく嬉しかったし、ちゃんと見てくれる気がして安心した。
- ・コメントを見るのが楽しい。
- ・自分がしたことを評価されるから良い。
- ・大学の授業は、教員と接する機会が少ないがノート提出によって会話する機会ができた。
- ・先生から褒められるとすごく嬉しかったし、アドバイスが適切でした。
- ・ノートを通して学生一人ひとりを知ってくれたのが

- 良かった。
- ・自分の意見を言えた。
- ・モチベーションの維持に良かったです。
- ・コメントをもらうことで自分がしていることを客観視して今後に生かせるから。

どちらとも言えないを選んだ学生

- ・良かったと思うこともあるが、使わないページも多い。

Q 8. メンバーからのフィードバックは有益だと思いますか？（ノートへのコメント）

以下主なコメントを抜粋（原文記載）

- ・回してコメント書くのが楽しかった。
- ・プラスコメントなので悲しくならない。
- ・何を書くべきか考えるためにメンバーの話聞くのに集中できた。
- ・面白いコメントがあって良かった。
- ・失敗したと思っても、できていたところを言ってもらえたので気持ちよく発表できた。
- ・意見交換するのは楽しい。
- ・ポジティブコメントが多くて嬉しかった。
- ・面白く、ユニークなコメントが多かった。
- ・自分では気づかないところに気づけたから。
- ・感想を聞けていいと思う。
- ・他人の意見がわかるので良い。
- ・メンバーのコメントは嬉しかった。
- ・メンバーから言葉で「良かった」と表現されると嬉しく頑張ろうと思えました。
- ・たくさん友だちができました。
- ・コミュニケーションのきっかけになるし、とても良い。
- ・コメントを見ると、とても気分が上がり、また「頑張ろう」という気持ちになる。

どちらとも言えないを選んだ学生

- ・人による。
- ・コメントしづらい時もあります。

- ・書いてもらってもあまり見返さない。
- ・改善点なども少しは教えてあげた方がよい。

あまり有益でないを選んだ学生

- ・感想がテンプレ化していた。

Q10. 教員やメンバーからのフィードバックは自信や自己肯定につながりましたか？

以下主なコメントを抜粋（原文記載）

- ・褒められることなどで、自分も少しは英語をできるようになったんだな?と思うことがありました。
- ・頑張ろうと思えた。
- ・楽しかった。
- ・自分を少し反省し、改善できた。
- ・少し自信がもてた。
- ・やる気になりました。
- ・自分の強みにつながった。
- ・発音が上手と言ってもらえたのが、すごく嬉しかった。
- ・褒められると嬉しいし、伸びる。
- ・他人からみた自分を知れて良かったです。先生はいつも褒めて下さるので、本当に自信につながりました。
- ・私の場合、不安が軽くなった。
- ・ポジティブな意見ばかりだったので、自信がついた。
- ・ほめられたら、もっと出来そうな気がしてうれしかった。

Appendix3 質問項目のみ抽出

【大学英语入門 (中級) 授業 アンケート】

授業内容向上のため、無記名でアンケートにご協力をお願いします。当てはまるものに○をつけてください。枠内には答えの理由をお願いします。成績等には一切関係しません。

- 1) 授業は有意義なものでしたか。
1 非常に有意義 2 有意義 3 どちらとも言えない 4 あまり有意義ではなかった 5 有意義ではない
- 2) 自身の英語力の向上につながりましたか？
1 とても上がった 2 やや上がった 3 変わらない 4 やや下がった 5 とても下がった
- 3) 授業の内容（評価）で改善すべき点がありますか？
1 全くない 2 あまりない 3 どちらとも言えない 4 ややある 5 ある
- 4) 評価は明確だと感じましたか？
1 とても明確 2 やや明確 3 どちらとも言えない 4 あまり明確でない 5 明確でない
- 5) ノートの提出は学習に有益だと思いますか？（教員のコメント）
1 とても有益 2 やや有益 3 どちらとも言えない 4 あまり有益でない 5 有益でない
- 6) 提出物のフィードバックは学習に有益だと思いますか？（添削）
1 とても有益 2 やや有益 3 どちらとも言えない 4 あまり有益でない 5 有益でない
- 7) 宿題を自分で考えて実行することは有益でしたか？
1 とても有益 2 やや有益 3 どちらとも言えない 4 あまり有益でない 5 有益でない
- 8) メンバーからのフィードバックは有益だと思いますか？（ノートへのコメント）
1 とても有益 2 やや有益 3 どちらとも言えない 4 あまり有益でない 5 有益でない
- 9) グループワークは学習に有益だと思いますか？
1 とても有益 2 やや有益 3 どちらとも言えない 4 あまり有益でない 5 有益でない
- 10) 教員やメンバーからのフィードバックは自信や自己肯定につながりましたか？
1 とてもつながった 2 ややつながった 3 どちらとも言えない 4 あまりつながらなかった 5 つながらなかった
- 11) 教員の小話（働きかけ、書籍紹介、思い出話）は、何かを考えるきっかけとなりましたか。
1 とてもなった 2 ややなった 3 変わらない 4 ならない 5 やめてほしかった
- 12) その他、コメントがあれば自由をお願いします。

ご協力ありがとうございました。

Appendix4

大学英语入門 英語自己評価アンケート

学部： 学科： 学籍番号： 氏名：

授業の参考、到達目標の確認など、今後に活用するためのアンケートです。
CEFR-Jの一覧表を見ながら、自分の英語力を評価、現状に○をつけてください。成績等には一切関係しません。
また、この結果は英語教育の論文に掲載される事がありますので、ご了承下さい。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	PreA1	A1.1	A1.2	A1.3	A2.1	A2.2	B1.1	B1.2	B2.1	B2.2	C1	C2
聞く												
読む												
やりとり												
発表												
書く												